

「2022さいたま市ユーモアフォトコンテスト」について

1. 作品募集期間 令和4年6月1日から8月31日(当日消印有効)

2. 応募者数 1,046名
 ※昨年1,139名

3. 応募点数 2,896点
 ※昨年3,301点

4. 応募者数内訳(都道府県別・国別)

国内 (1,045名)

海外 (1カ国1名)

都道府県名	人数	都道府県名	人数	都道府県名	人数	国名	人数
北海道	26	富山県	3	岡山県	8	台湾	1
青森県	3	石川県	0	広島県	5		
岩手県	12	福井県	3	山口県	22		
宮城県	7	山梨県	4	徳島県	2		
秋田県	3	長野県	9	香川県	8		
山形県	4	岐阜県	4	愛媛県	18		
福島県	17	静岡県	23	高知県	4		
茨城県	10	愛知県	26	福岡県	14		
栃木県	23	三重県	32	佐賀県	4		
群馬県	14	滋賀県	7	長崎県	9		
埼玉県	379	京都府	14	熊本県	8		
市内	129	大阪府	40	大分県	4		
市外	250	兵庫県	52	宮崎県	5		
千葉県	27	奈良県	16	鹿児島県	6		
東京都	56	和歌山県	19	沖縄県	1		
神奈川県	82	鳥取県	0				
新潟県	10	島根県	2				

5. 審査会

(1)日 時 令和4年9月11日(日) 10時～15時

(2)審査員 赤石 路代 (漫画家)
 あらい 太朗 (漫画家、さいたま観光大使)
 河野 和典 (元「日本カメラ」編集長)
 三遊亭楽生 (落語家、さいたま観光大使)
 鈴木 万寿夫 (写真家、日本写真協会会員、元「週刊女性」カメラマン)
 三浦 恵美子 (全日本写真連盟関東本部委員)
 福田 裕己 (さいたま市立大宮北高等学校写真部)
 小出 紗希江 (さいたま市立大宮北高等学校写真部)

(3) 審査講評

旧大宮市の頃に始まりました「さいたま市ユーモアフォトコンテスト」は、今年で 31 回目を迎えました。2020 年より続く新型コロナウイルス感染症の影響からか、全体的に人と会う機会が減ったことで人物を被写体とした作品が減少し、風景や動物等をモチーフとした様々なジャンルの作品が増加したように感じます。本年度も若年層からご年配の方まで幅広い層の方々より 2,900 点ほどのご応募をいただきました。

写真の撮影技術が年々向上している中で、魅力的なタイトルが添えられたユーモアに溢れる作品が多数ありました。構図やモチーフもオリジナリティにあふれ、パッと見てわかりやすい作品が増えているように思います。

コンテストを今後も継続していくことで、作品を見た人が楽しく明るい気持ちになれるような「ユーモアフォト」をこれからも多くお寄せいただけることを願っています。

6. 入賞者

受賞名	作品名	受賞者(敬称略)
最優秀賞 (賞状、賞金10万円、記念品)	羽どうしたの？	山本 ひづる
優秀賞 (賞状、賞金5万円、記念品)	再起動・・・!	津田 雄太
	撮るよ	峯岸 誠一
	要治療	山中 健次
入選(賞金1万円、記念品)	—	30名
佳作(記念品)	—	50名